

## 鶴ヶ居貝塚 (つるがいかいづか)

所在地：行方市山田 2966 番地ほか

調査期間：平成 28 年 9 月 1 日～平成 29 年 5 月 31 日

調査面積：6,335 m<sup>2</sup>

委託者：茨城県鉾田工事事務所

調査機関：公益財団法人茨城県教育財団 (行方事務所)

TEL 029-225-6587 <http://www.ibaraki-maibun.org>

後援：行方市教育委員会



### ようこそ 鶴ヶ居貝塚へ！ご自由にご覧ください。

- ・見学場所は、遺構ゾーン、遺物ゾーン、調査ゾーンの3か所です。ご自由にご移動ください。
- ・調査した遺構は、深く危険です。ロープ内には立ち入らず、周囲の遺構や足元に注意して通路をお進みください。
- ・展示している遺物は壊れやすいため、お手を触れないようお願いいたします。体験コーナーに置いてある遺物にはさわれますので、ぜひ触れてみてください。
- ・写真撮影は可能ですが、インターネット等への掲載はご遠慮願います。
- ・周辺でイノシシが出没していますので、ご注意ください。
- ・会場内は禁煙です。
- ・この資料は調査途中の情報で、最終的な結果ではありません。資料の引用や転載はご遠慮願います。
- ・北浦第2グラウンド駐車場は午後1時に閉門・施錠となりますので、ご注意ください。

### 1 調査の概要

当遺跡は、行方市の北東部、北浦に面した標高約 34m の台地上に立地しています。昭和 47 年に北浦村教育委員会による発掘調査で竪穴建物跡 16 棟などが発見され、縄文時代中期 (5,000～4,000 年前) の集落跡であることがわかっています。

今回の調査では、竪穴建物跡 7 棟 (縄文時代 6 棟、古墳時代 1 棟)、「袋状土坑」などの土坑約 560 基 (縄文時代)、陥し穴 4 基 (縄文時代) などを確認しています (平成 29 年 2 月 1 日現在)。遺跡名になっている「貝塚」は、小規模な貝層が 6 基の土坑内で見つかっています。

遺物は、縄文土器 (深鉢・浅鉢)、土製品 (土器片錘)、石器 (鎌・打製石斧・磨製石斧・石匙・石皿・磨石・石錘・敲砥石)、石製品 (垂飾)、骨角器 (ヤス)、貝 (ハマグリ・シオフキ・カガミガイ・アカニシ)、魚骨など縄文時代の遺物のほか、古墳時代の土師器 (坏・甕) が出土しています。



遺跡位置図

『いばらきデジタルまっぷ』を加筆

## 2. 調査状況



### 【第166号土坑】

袋状土坑内で貝層を確認しました。貝は層ごとに分けて掘り込みます。魚をとるヤスや当時の人々が食べていたハマグリ、小形の魚とみられる骨などが出土しました。



### 【第352号土坑】

袋状土坑を埋め戻すときに、壊れた土器をまとめて廃棄したようです。石鏃も出土しています。



### 【第3号住居跡】

中央部の床が深く掘りこまれた有段式の建物跡です。床面の周囲に掘られた溝が複数確認できることから、建て直したものとみられます。

### 【第266号土坑】

小形の縄文土器（右手前）とともに打製石斧（中央左）や石錘（左手前）なども出土しました。



### 【第148号土坑】

土坑内のピットから出土した縄文土器の深鉢です。底が抜けた状態で出土しました。口縁部が広がっているキャリパー形と呼ばれる土器です。



## 3 調査の成果

約4,500年前の縄文時代中期、この地で暮らしていた人々は、集落の周辺で採取したクリやドングリなどの堅果類を貯蔵するために多数の袋状土坑を掘ったと考えられます。土坑は谷への緩やかな斜面部に群集していることから、北浦側の台地平坦部に建物を建てて居住域とし、その周辺の斜面部付近を貯蔵の場としていた景観が想像できます。使用を終えて窪地となった袋状土坑の中からは、小規模な貝層が見つかりました。出土した貝は海水に生息する種であることから、温暖な気候に伴って海水面が上昇した縄文海進によって、当遺跡の周辺まで海が入り込んでいたと考えられます。

これらの遺構や遺物は、当時の人々が集落周辺の自然環境を利用して狩猟、採集、漁労を生業としていたことを現代の私たちに語りかけてくれます。

次回の現地説明会は、3月12日（日）に那珂市下大賀遺跡で開催予定です。発掘調査の成果をぜひご覧ください。

